



2018年度 期末連結決算 台風の影響を受けながらも、早期復旧により 前期比 増収増益

関西エアポート株式会社は、2018年4月から2019年3月までの第4期会計年度期末連結決算において、営業収益は2,204億円、営業利益は573億円、経常利益は461億円、当期純利益*は296億円を計上しました。

今期は台風21号被災による関西国際空港の閉鎖がありましたが、関係者の皆様のご尽力により早期復旧することができ、その後も航空需要が順調に回復・成長したことや2018年4月より神戸空港の運営を開始したこともあり、前期と比較すると、営業収益は7%の増加、営業利益は8%の増加となりました。台風被害にかかる損失及び受取保険金を特別損益に計上しましたが、当期純利益においても5%の増益となりました。

なお、台風による今期の減収・損失額は81億円（台風による損失額全てを含むものではありません）となりました。

（連結損益計算書）

【単位：億円】	2017.4-2018.3	2018.4-2019.3	増減	%
営業収益	2,064	2,204	140	+7%
外部費用	(1,150)	(1,233)	(83)	+7%
EBITDA	914	971	57	+6%
減価償却費	(384)	(398)	(14)	+4%
営業利益	529	573	43	+8%
経常利益	418	461	42	+10%
当期純利益*	283	296	13	+5%

* 「当期純利益」は、「当社株主に帰属する当期純利益」を記載しています。

（航空需要の状況）

関西国際空港では、台風21号被災による閉鎖期間があったものの、新規就航・増便の多かった中国、東南アジア方面の国際線旅客便の増加により、2018年度の航空機発着回数は、年度として過去最高の結果となりました。大阪国際空港におきましては前年横ばい、神戸空港も好調に推移し、3空港の総発着回数は35.8万回となりました。

航空旅客数は、関西国際空港では、大阪北部地震や台風21号といった自然災害の影響を受けながらも、国際線外国人旅客数が7年連続過去最高を記録し、また国際線日本人旅客数も6年ぶりに700万人を突破する等、旺盛な航空需要にも支えられ総旅客数が年度として過去最高となる2,941万人を記録しました。大阪国際空港におきましては、機材大型化の影響を受け、また神戸空港におきましても多くのお客様にご利用いただき、両空港でも過去最高の旅客数となりました。結果、関西国際空港・大阪国際空港・神戸空港を合わせた3空港の総旅客数は過去最高の4,890万人となりました。

	2017.4-2018.3	2018.4-2019.3	増減	増減率
航空機発着回数（万回）	35.4	35.8	0.3	+1%
関西国際空港	18.8	19.0	0.1	+1%
大阪国際空港	13.8	13.8	0.0	+0%
神戸空港	2.8	3.0	0.2	+7%
航空旅客数（万人）	4,762	4,890	128	+3%
関西国際空港	2,881	2,941	60	+2%
大阪国際空港	1,568	1,630	62	+4%
神戸空港	314	319	5	+2%

（連結貸借対照表）

2019年3月31日現在における財政状態は、前期末と比べると、公共施設等運営権に係る負債の支払いと、公共施設等運営権の償却が進んだ結果、資産・負債ともに減少となり、資産合計は1兆7,573億円、負債合計は1兆6,633億円となりました。

【単位：億円】	2018.3.31 現在	2019.3.31 現在	増減
流動資産	1,663	1,764	101
固定資産	15,976	15,809	(167)
資産合計	17,639	17,573	(66)
流動負債	807	815	8
固定負債	15,985	15,818	(166)
負債合計	16,792	16,633	(159)
株主資本	836	932	96
その他の包括利益累計額	0	(5)	(5)
非支配株主持分	11	13	2
純資産合計	847	940	92
負債・純資産合計	17,639	17,573	(66)

*「税効果会計に係る会計基準」の一部改正に伴い、2017年度末の連結貸借対照表の組替を実施しています。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
 企画・管理部 コーポレート・コミュニケーションズ
 Tel：072-455-2201

連 結 損 益 計 算 書

〔 自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日 〕

(単位: 百万円)

営 業 収 益		220,355
営 業 原 価		140,164
営 業 総 利 益		80,190
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		22,930
営 業 利 益		57,260
営 業 外 収 益		1,275
受 取 利 息 及 び 配 当 金	719	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	157	
そ の 他 の 営 業 外 収 益	398	
営 業 外 費 用		12,448
支 払 利 息	12,330	
支 払 手 数 料	99	
そ の 他 の 営 業 外 費 用	17	
経 常 利 益		46,087
特 別 利 益		6,180
固 定 資 産 売 却 益	0	
災 害 に 伴 う 受 取 保 険 金	6,179	
特 別 損 失		9,332
固 定 資 産 除 却 損	267	
更 新 投 資 に 伴 う 撤 去 費 用	1,085	
災 害 に よ る 損 失	4,756	
災 害 損 失 引 当 金 繰 入 額	3,222	
減 損 損 失	0	
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		42,935
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	15,862	
法 人 税 等 調 整 額	△ 2,692	
当 期 純 利 益		29,765
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		178
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		29,587

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連結貸借対照表

〔平成31年3月31日現在〕

(単位: 百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	176,363	流 動 負 債	81,488
現金及び預金	131,884	買 掛 金	4,207
受取手形及び売掛金	11,983	未 払 金	21,081
商 品	5,529	未 払 費 用	3,886
原材料及び貯蔵品	1,194	1年内返済予定の長期借入金	3,213
1年内回収予定の差入保証金	13,269	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	29,609
未 収 金	7,321	未 払 法 人 税 等	9,788
そ の 他	5,180	賞 与 引 当 金	1,054
		ポ イ ン ト 引 当 金	88
		災 害 損 失 引 当 金	3,197
		そ の 他	5,361
固 定 資 産	1,580,908	固 定 負 債	1,581,822
有 形 固 定 資 産	25,590	社 債	4,860
建物及び構築物	3,866	長 期 借 入 金	173,886
機械装置及び運搬具	8,947	公共施設等運営権に係る負債	1,342,103
土 地	604	繰 延 税 金 負 債	16
建設仮勘定	6,742	特 別 修 繕 引 当 金	48,309
そ の 他	5,430	災 害 損 失 引 当 金	24
無 形 固 定 資 産	1,437,384	退 職 給 付 に 係 る 負 債	4,169
公共施設等運営権	1,417,674	そ の 他	8,452
更新投資に係る資産	18,484	負 債 合 計	1,663,311
そ の 他	1,225	純 資 産 の 部	
投資その他の資産	117,933	株 主 資 本	93,169
投資有価証券	1,681	資 本 金	25,000
退職給付に係る資産	239	資 本 剰 余 金	25,000
差入保証金	108,407	利 益 剰 余 金	43,169
繰延税金資産	7,456	その他の包括利益累計額	△ 492
そ の 他	157	その他有価証券評価差額金	84
貸倒引当金	△ 8	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△ 576
		非 支 配 株 主 持 分	1,283
		純 資 産 合 計	93,960
資 産 合 計	1,757,272	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,757,272

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016 年 4 月 1 日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018 年 4 月 1 日からは関西エアポート株式会社の 100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西 3 空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地 大阪市西区西本町一丁目 4 番 1 号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO エマヌエル・ムノント		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港 1 番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO エマヌエル・ムノント		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964 年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971 年の香港進出を皮切りに世界 37 カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、46 空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するフランス、ポルトガル、イギリス、スウェーデン、セルビア、カンボジア、日本、アメリカ合衆国、ドミニカ共和国、コスタリカ、チリ、そしてブラジルの空港には、合計で約 250 社の航空会社が就航し、2018 年の旅客者数は 2 億 4,000 万人にのびます。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとしての専門知識を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして、空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設事業を行っています。

2018 年の連結売上高は 16 億ユーロ、グループ全体の売上高は 36 億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱 U F J 銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

2018年度 期末連結決算

2019.06.04



Shaping a New Journey



アジェンダ

- 2018年度 期末連結決算の概要
- 営業収益分析
- 投資計画





2018年度 期末連結決算の概要

台風による影響を受けながらも、前期比 増収増益

【単位：億円】

1. 台風被災後、順調に回復・成長した航空需要

⇒すべての空港で航空旅客数増

⇒旅客数の伸び率を上回る非航空系収入

2. 台風による影響

⇒ 営業収益の減少や復旧にかかった経費のほか、次年度以降復旧工事のための引当金や受取保険金も計上

	2017.4-2018.3	2018.4-2019.3	増減	%
営業収益	2,064	2,204	140	+7%
EBITDA	914	971	57	+6%
営業利益	529	573	43	+8%
経常利益	418	461	42	+10%
当期純利益*	283	296	13	+5%

*「当期純利益」は、「当社株主に帰属する当期純利益」を記載

台風の影響

→ 2018年度期末連結決算における、台風による減収・損失額 81億円（※）

	金額（億円）	
営業収益	△82	}
航空系	△36	
非航空系	△45	
売上原価	+19	}
災害による損失	△48	
災害損失引当金繰入額	△32	
災害に伴う受取保険金	+62	
合計	△81	

△63

△80

（例）

- ・建築修繕（貨物上屋の屋根・庇など）
- ・臨時シャトルバス運行費
- ・防災、機械、電気関連設備復旧
- ・浸水による商品の滅失損失 など

※台風による損失額全てを含むものではありません。

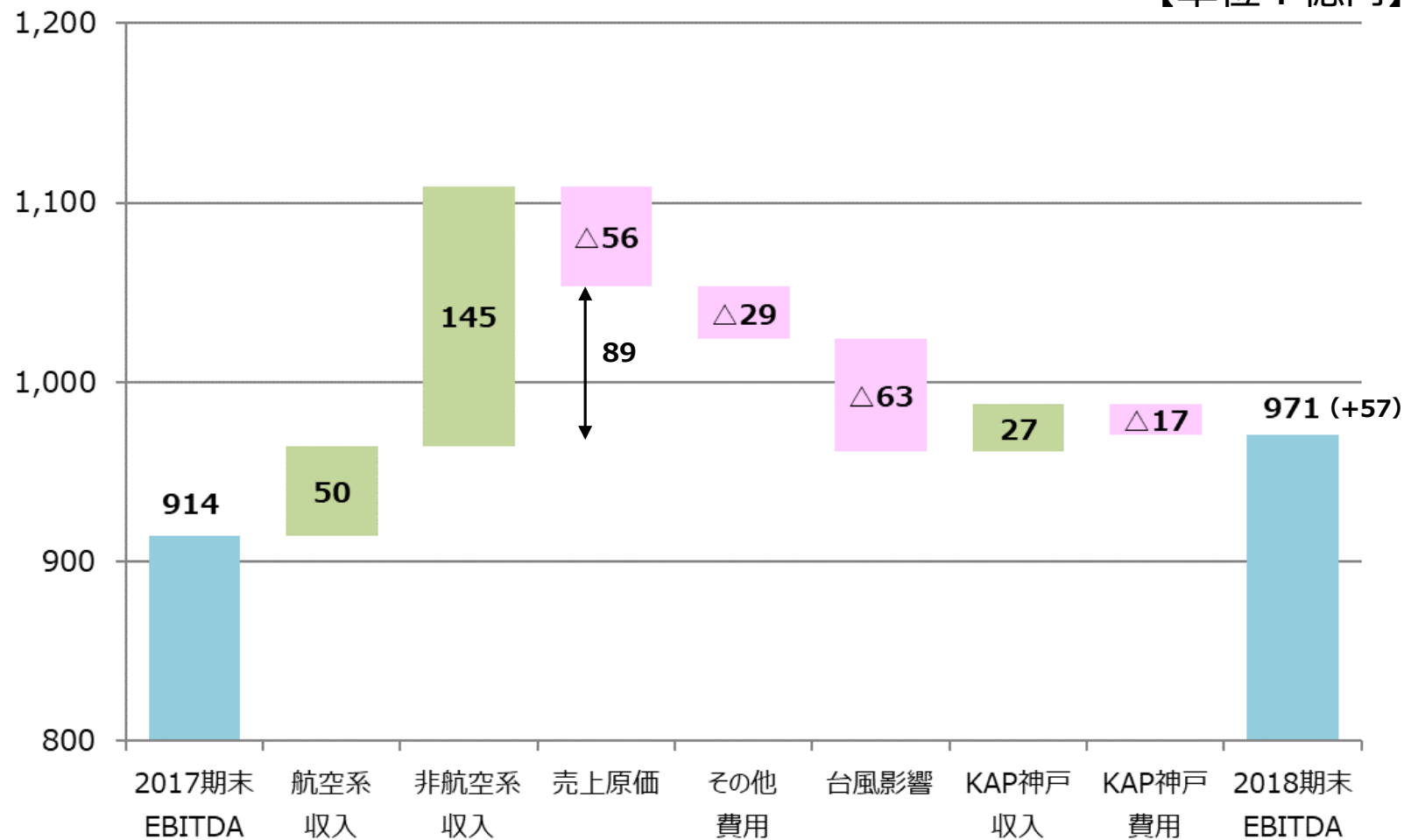
経営成績 - 台風影響を上回る増収により増益 -

【単位：億円】

	2017.4-2018.3	2018.4-2019.3	差額	%	備考
営業収益	2,064	2,204	140	+7%	台風の影響△82億円
航空系	873	902	29	+3%	台風の影響△36億円
非航空系	1,190	1,301	111	+9%	台風の影響△45億円
営業費用（減価償却費除く）	(1,150)	(1,233)	(83)	+7%	台風の影響+19億円
EBITDA	914	971	57	+6%	
減価償却費	(384)	(398)	(14)	+4%	
営業利益	529	573	43	+8%	
営業外損益	(111)	(112)	(1)	+1%	
経常利益	418	461	42	+10%	
特別損益	(3)	(32)	(28)	+886%	台風の影響△18億円
法人税等、非支配株主帰属損益	(132)	(133)	(1)	+1%	
当期純利益*	283	296	13	+5%	

EBITDA分析 - 非航空系収入が特に牽引、増益を達成 -

【単位：億円】



バランスシート

【単位：億円】

		2017年度末 (2018.3.31現在)	2018年度末 (2019.3.31現在)	増減
公共施設等 運営権	流動資産	1,663	1,764	101
	固定資産	15,976	15,809	(167)
	資産合計	17,639	17,573	(66)
公共施設等 運営権に係る負債	流動負債	807	815	8
	固定負債	15,985	15,818	(166)
	負債合計	16,792	16,633	(159)
	株主資本	836	932	96
	その他の包括利益累計額	0	(5)	(5)
	非支配株主持分	11	13	2
	純資産合計	847	940	92
	負債・純資産合計	17,639	17,573	(66)



營業收益分析

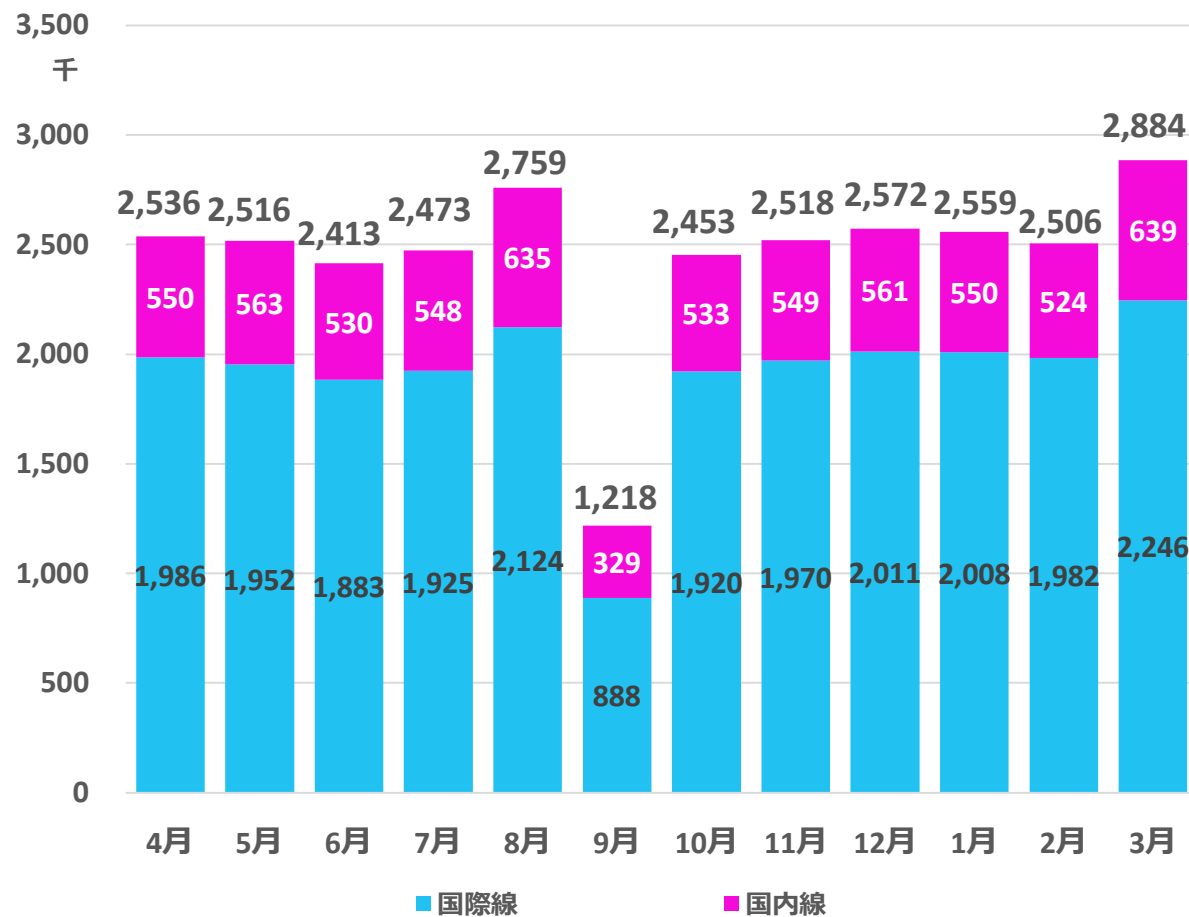
【航空系】3空港合計の総旅客数が年度として過去最高

- 3空港合計の旅客数、国内線旅客数ともに、年度として過去最高
- 3空港合計の発着回数は前年比1%増
- 関西国際空港：国際線外国人旅客数が年度として過去最高
- 関西国際空港：国際線日本人旅客が6年ぶりに700万人超えを記録
- 大阪国際空港：旅客数が前年比4%増
- 神戸空港：旅客数が年度として過去最高

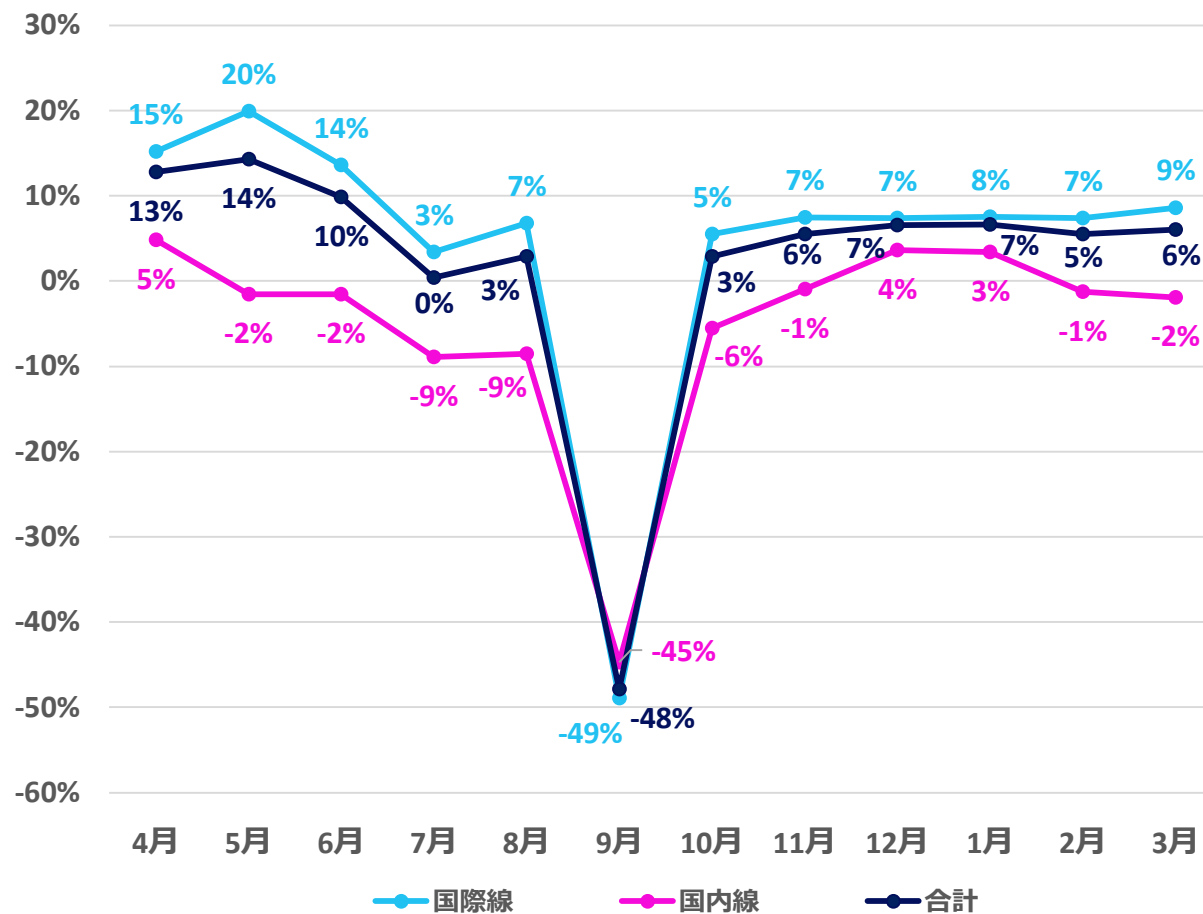
	2017年度	2018年度	増減	%
発着回数（万回）	35.4	35.8	0.3	+1%
関西国際空港	18.8	19.0	0.1	+1%
大阪国際空港	13.8	13.8	0.0	-0%
神戸空港	2.8	3.0	0.2	+7%
航空旅客数（万人）	4,762	4,890	128	+3%
関西国際空港	2,881	2,941	60	+2%
国際線	2,191	2,289	99	+5%
日本人旅客	670	718	47	+7%
外国人旅客	1,501	1,552	50	+3%
大阪国際空港	1,568	1,630	62	+4%
神戸空港	314	319	5	+2%

2018年度 KIX旅客数推移

2018年度旅客数推移



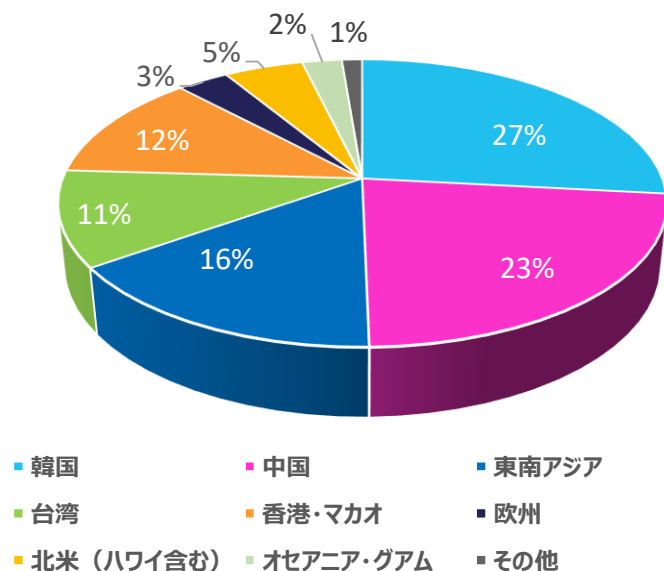
2018年度旅客数（前年同期比）



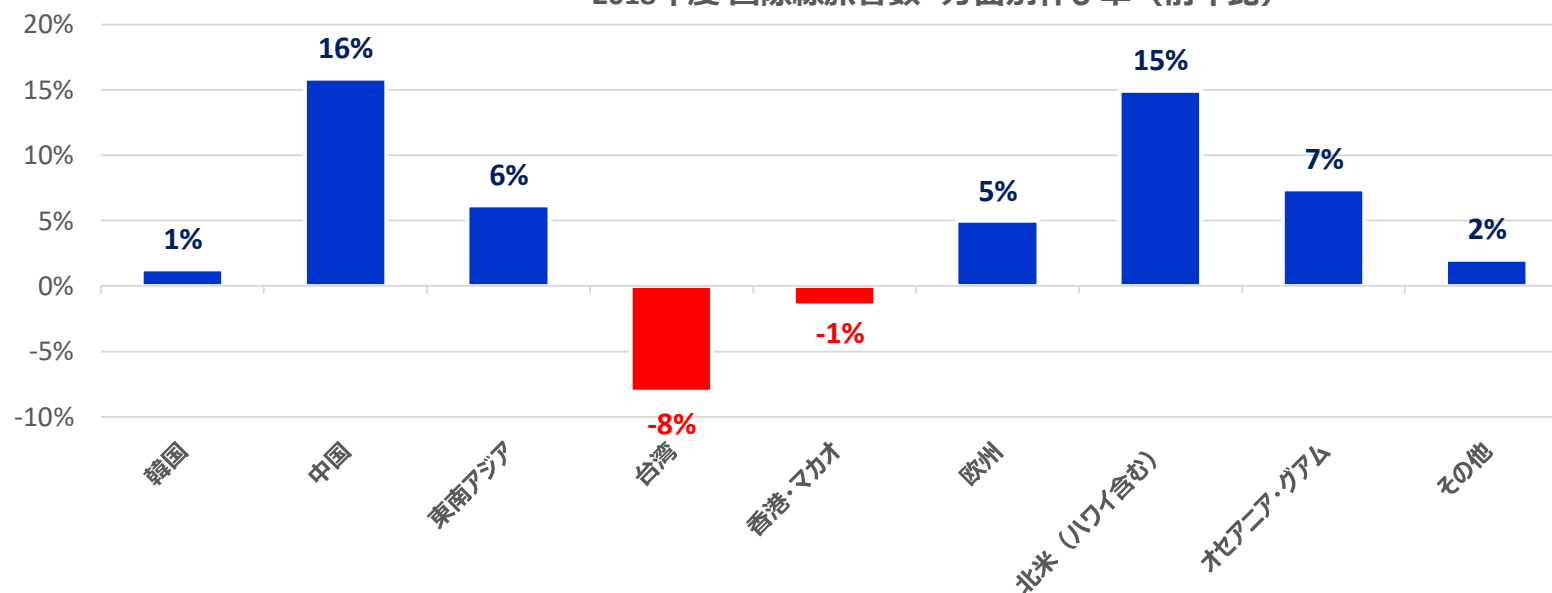
【航空系】KIX 中国、東南アジア方面が好調

- ✈ 中国、東南アジア方面を中心に増便が続いており、中国は前年を16%上回り、東南アジアは前年を6%上回る
- ✈ 欧州、ハワイ、オセアニア・グアムの長距離路線も押し並べて好調

2018年度 国際線旅客数 方面別シェア

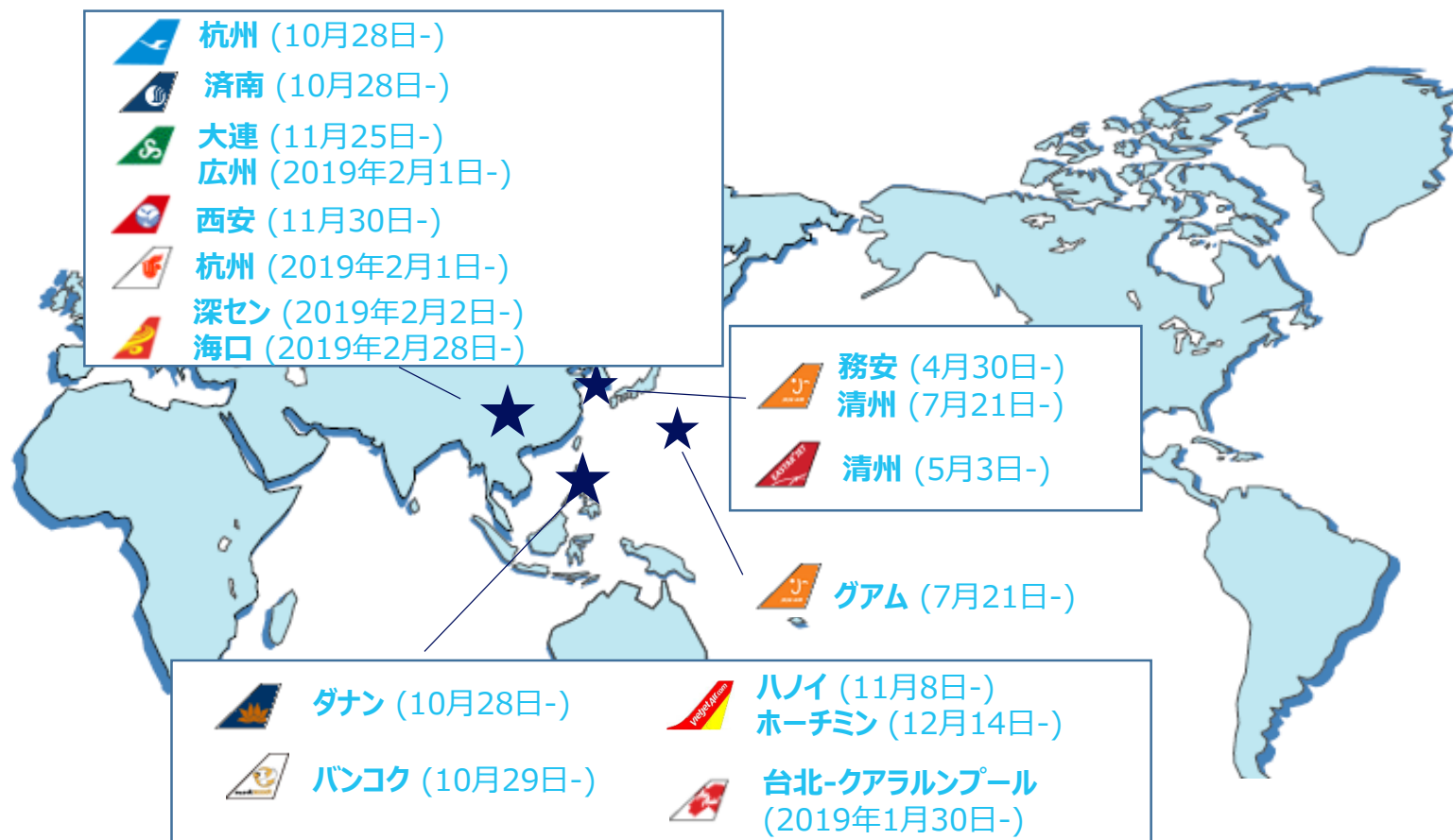


2018年度 国際線旅客数 方面別伸び率（前年比）

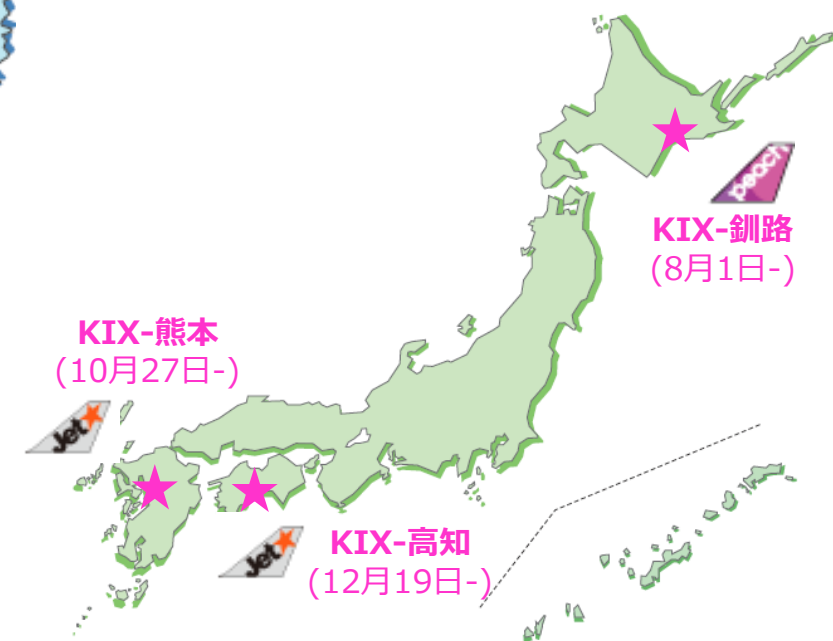


【航空系】 旅客便 新規路線（2018年夏期・冬期）

KIX 国際線

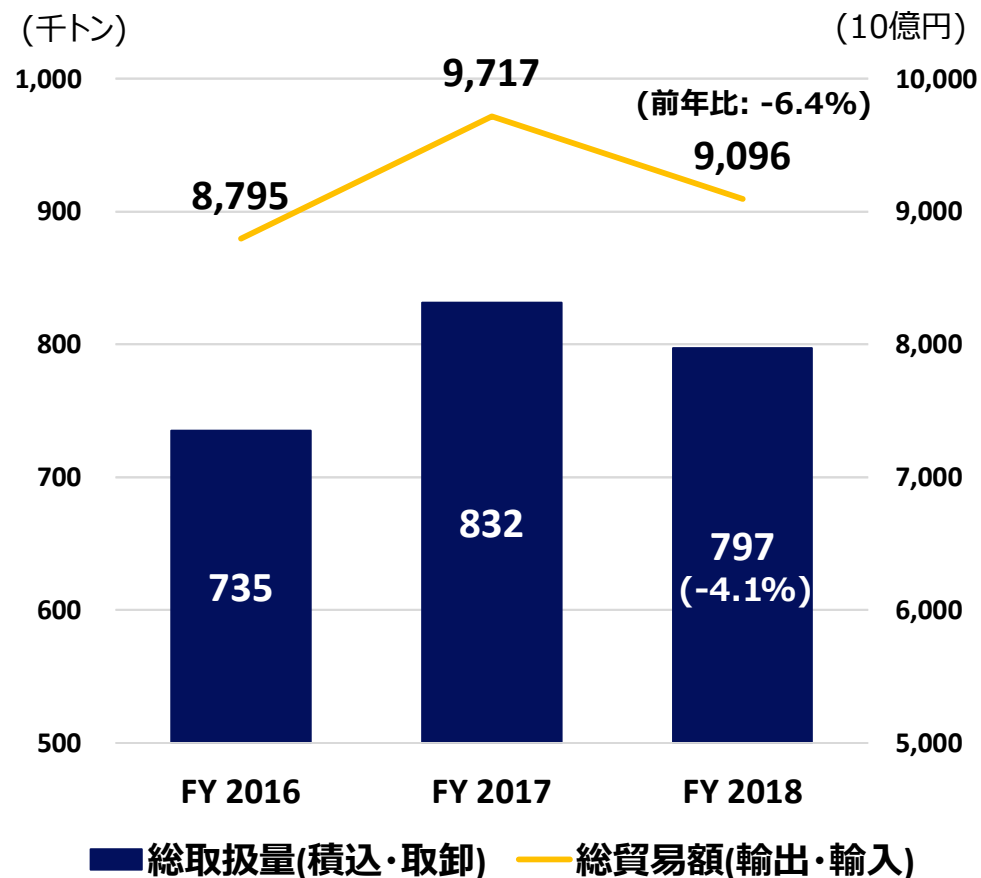


国内線

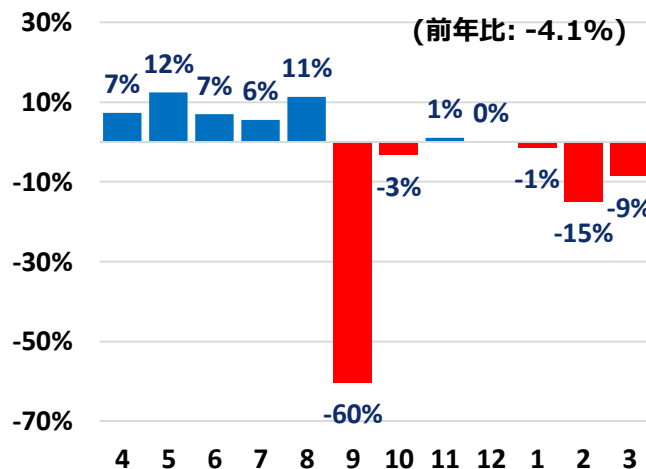


【国際貨物】 貨物量・成長率 (2018年度)

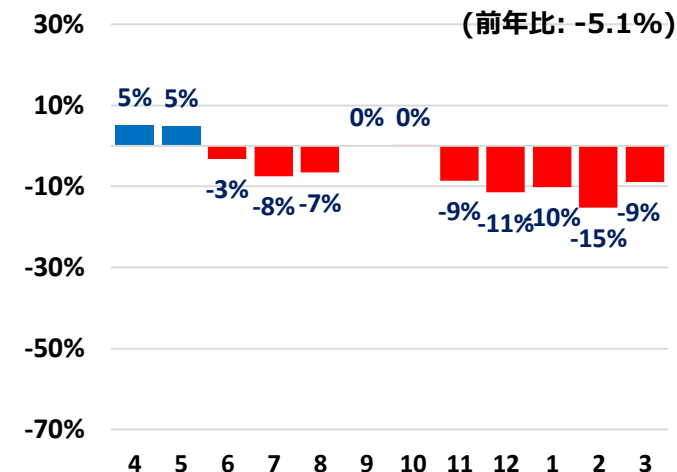
KIX 貨物量/貿易額



KIX 貨物量/成長率

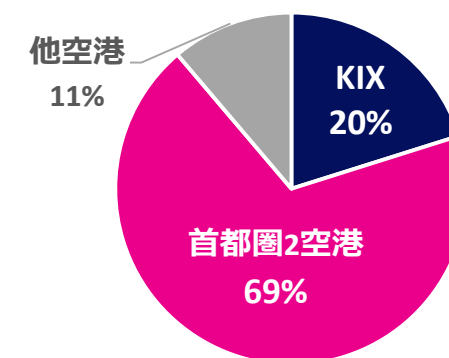


首都圏2空港 貨物量/成長率



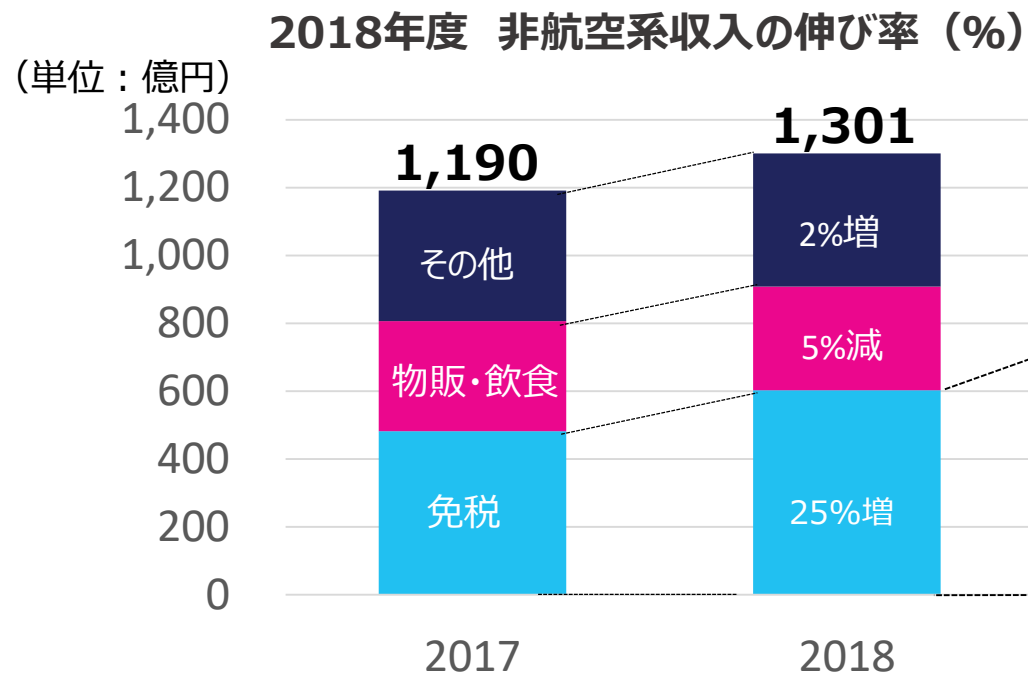
日本における 国際航空貨物量取扱いシェア

出典：2017年度実績、国土交通省公表資料

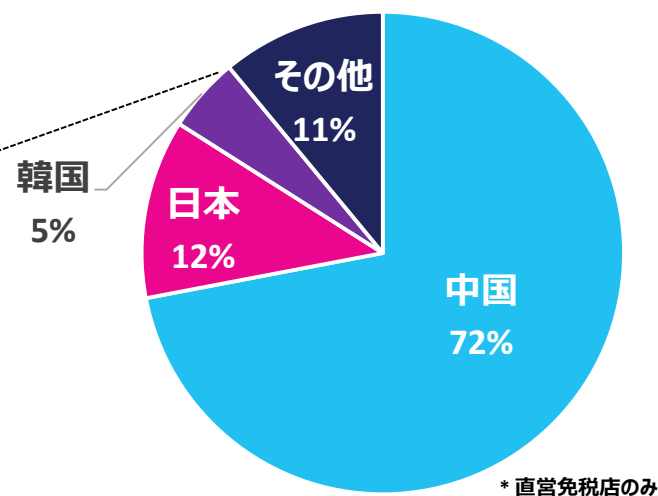


【非航空系】 好調な非航空系収入の伸び

- ➔ 非航空系収入は災害により一時的に落ち込んだものの、中国人購買が堅調に推移し、過去最高の1,301億円を記録
- ➔ 前年比25%増加した免税事業収入が商業事業の力強い成長をけん引
- ➔ 直営免税店における中国人売上は高い客単価と購買率に支えられシェアが72%にまで拡大



2018年度 国籍別免税店売上の割合 (%) *



【非航空系】 ニーズの高い店舗を導入

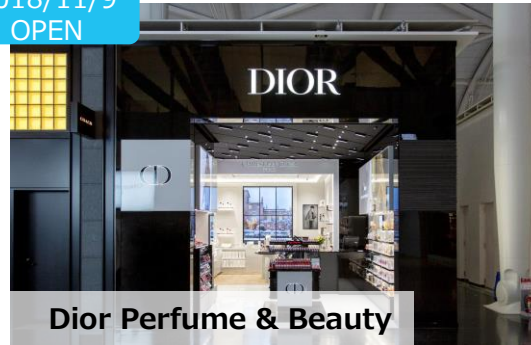
- 2018年度において関西空港にニーズの高い免税店を導入
- ご要望が多かった国際線出国エリアにおける飲食店舗の充実についても、2018年度から2019年度にかけて4店舗を改装オープン
- 2019年4月25日に「PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE / BAO BAO ISSEY MIYAKE」、5月16日に「クレ・ド・ポー ボーテ」がそれぞれ開業

2018/4/1
OPEN



Arrival duty free shop

2018/11/9
OPEN



Dior Perfume & Beauty

2018/12/1
OPEN



iQOS shop

(2018年度)

2019/4/24
OPEN



È PRONTO

2019/4/25
OPEN



PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE
BAO BAO ISSEY MIYAKE

2019/5/16
OPEN

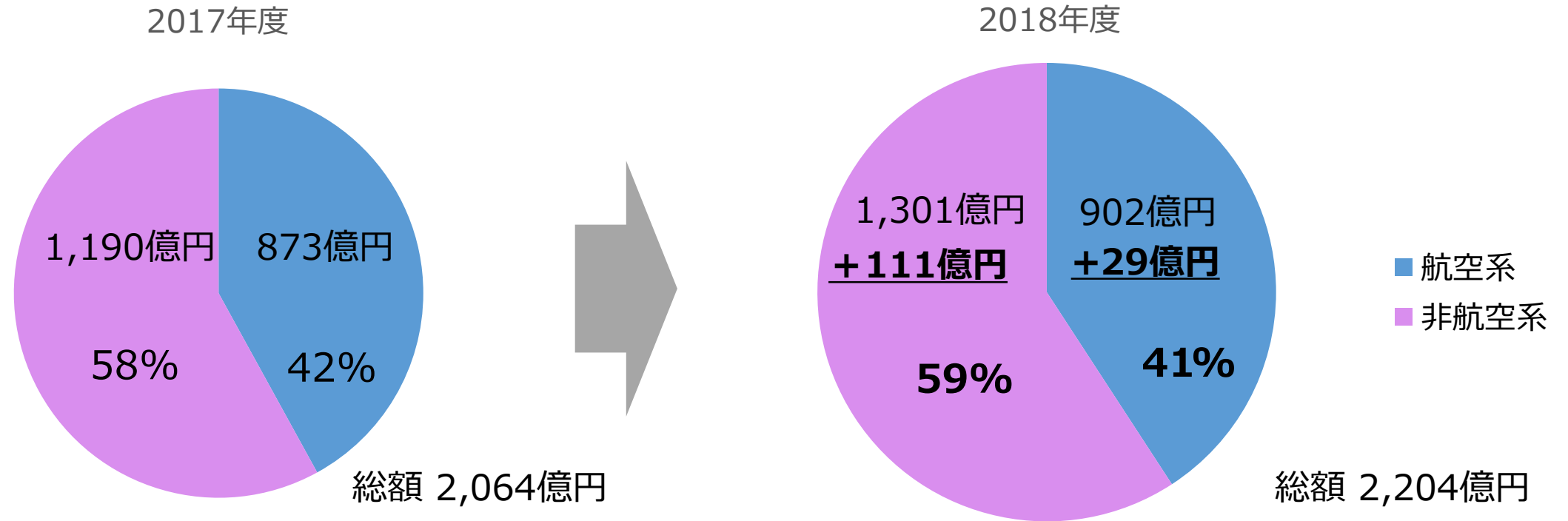


CLÉ DE PEAU BEAUTÉ

(2019年度)

非航空系収入の割合が増加

- 非航空系収入の割合：対前年1%増の59%
- 航空系収入：旅客数・発着回数の増加に伴い29億円の増収
- 非航空系収入：免税事業収入を中心に111億円の増収





投資計画

投資計画

→ 今後5年間(2019年～2023年)で3空港合わせて
総額約1,350億円を積極的に投資する

【主なプロジェクト】

- 安全安心のための取り組み
 - BCP関連（電源地上化、護岸対策等）
 - 3空港の滑走路の改修
 - 天井の耐震強化（KIX、ITAMI、KOBE）
- 利便性・快適性向上のための取り組み
 - ITAMIターミナル リノベーション
 - ファストトラベルの取り組み
 - ITAMI・KIX全旅客搭乗橋の更新
 - KOBEターミナル 商業エリア改修
- 空港のキャパシティ向上のための取り組み
 - KIX航空機エプロン追加整備
 - KIX旅客手荷物取扱施設の更新



投資案件の事例



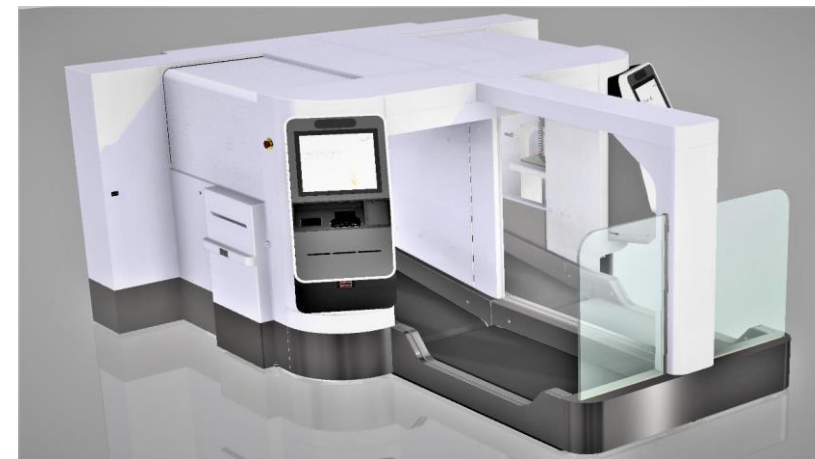
護岸部の補修・嵩上



ITAMI ターミナルリノベーション



天井の耐震強化



セルフバグゲドロップ



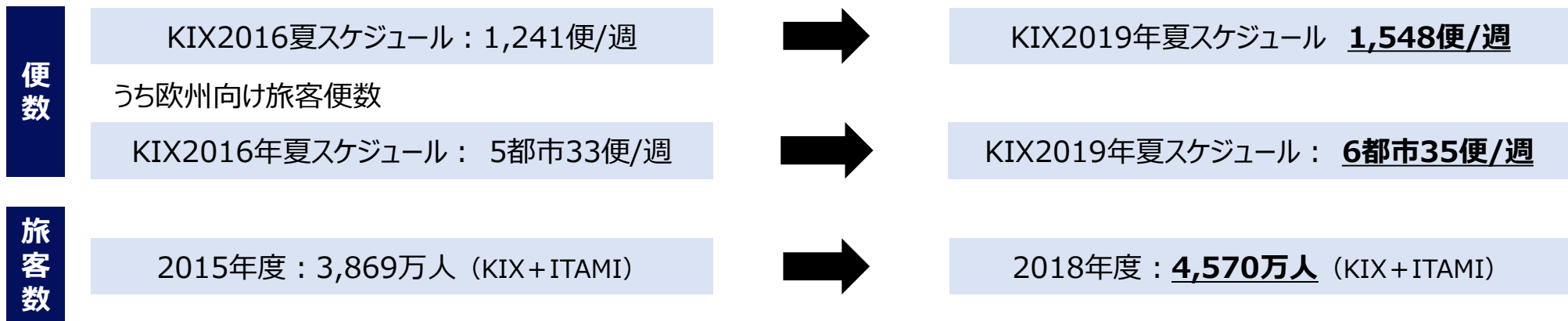
質疑応答



参考資料

3年間を振り返って

→ 便数、旅客数



→ 非航空系収入



→ 新関西国際空港株式会社から引き継いだ取り組み

KIX第2ターミナル国際線拡張 / ITAMIターミナル リノベーション

→ 運営開始後の取り組み

新BCPの導入、災害対策強化

ファストトラベルの取り組み / グループ会社統合 / 会計システム統合 / 人材交流の促進、研修制度の充実

これまでの主な取り組み



エアアジアX ハワイ線
(2017年夏)



カンタス航空 シドニー線
(2017年冬)



ベトジェットエア ハノイ、ホーチミン線
(2018年冬)

新規就航

2018年4月



神戸空港運用開始

2017年1月



第2ターミナルビル（国際線）開業
ウォークスルー型免税店オープン

2017年3月



ファーストキャビン関西空港
オープン

2018年4月



到着時免税店オープン

2018年4月



大阪国際空港中央エリアおよび
展望デッキ先行リニューアルオープン

2018年6月



ビジネスジェット専用施設
「玉響」オープン



ファストトラベルの推進



2019年度以降の主な取り組み

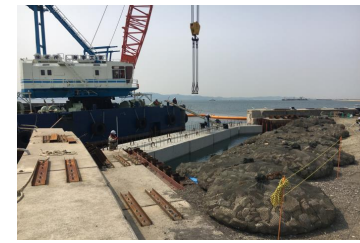


ブリティッシュ・エアウェイズ ロンドン線
(2019年夏スケジュール)

新規就航



デルタ航空 シアトル線
(2019年夏スケジュール)



新BCP・災害対策



新規店舗



キャッシュレス化推進



T1リノベーション



KIX Pharma コミュニティ
CEIV Pharmaの
認証取得 (予定)